

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **03045028 A**(43) Date of publication of application: **26.02.91**

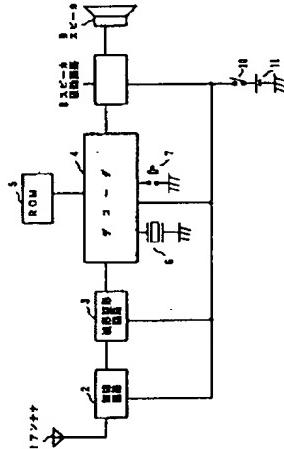
(51) Int. Cl

H04B 7/26(21) Application number: **01179116**(71) Applicant: **NEC CORP NEC SHIZUOKA LTD**(22) Date of filing: **13.07.89**(72) Inventor: **TSUNODA KAZUYUKI
YAMADA KAZUMORI****(54) RADIO SELECTIVE CALL RECEIVER****(57) Abstract:**

PURPOSE: To simply confirm plural ring tone patterns by comparing a signal relating to a call with a preset its own call number, sending a ring tone signal when the call is a normal callout when the comparison is coincident, and stopping the transmission of a ring tone signal with reset for a prescribed time on emergency call.

CONSTITUTION: A received radio signal is amplified by a radio circuit 2 and demodulated and converted into a waveform to be readable with a decoder 4 by a waveform shaping circuit 3. The decoder 4 compares its own call number written in advance in a ROM 5 with a signal from a waveform shaping circuit 3 to judge whether the call is an emergent call or a normal call. In the case of the normal call, the decoder generates a normal call ring tone from a speaker 9. In the case of the emergency call depending on its call number, the same ring tone of interrupt period as the normal call ringing tone is generated. Thus, in the case of the normal call, while the ring tone is stopped by pressing a reset switch 7 once, the emergency call in the same interrupt period ring tone is not reset even when the reset switch 7 is depressed, and the presence of the emergency call is identified.

COPYRIGHT: (C)1991,JPO&Japio



⑫ 公開特許公報(A)

平3-45028

⑬ Int. Cl. 5

H 04 B 7/26

識別記号

103 E

府内整理番号

7608-5K

⑭ 公開 平成3年(1991)2月26日

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 無線選択呼出し受信機

⑯ 特 願 平1-179116

⑰ 出 願 平1(1989)7月13日

⑮ 発明者 角田 和之	東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑯ 発明者 山田 一盛	静岡県掛川市下俣4番2 静岡日本電気株式会社内
⑰ 出願人 日本電気株式会社	東京都港区芝5丁目7番1号
⑰ 出願人 静岡日本電気株式会社	静岡県掛川市下俣4番2
⑰ 代理人 弁理士 岩佐 義幸	

明細書

1. 発明の名称

無線選択呼出し受信機

2. 特許請求の範囲

(1) 少なくとも2種類以上の個別選択呼出し番号を有する無線選択呼出し受信機において、

呼出し信号に係る無線信号を受信して復調し、この呼出しに係る信号を出力する受信部と、

前記受信部からの、呼出しに係る信号と予め設定されている自己の呼出し番号とを比較して一致した場合、この呼出しが通常呼出しのとき、鳴音信号を送出し、リセットにより鳴音信号の送出を停止し、この呼出しが緊急呼出しのとき、所定時間のリセットにより鳴音信号の送出を停止するデコーダ部と、

前記デコーダ部からの鳴音信号を変換して鳴音を送出する変換部とを有することを特徴とする無線選択呼出し受信機。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は、複数の呼出し番号を有し、それぞれの呼出し番号に対応して通報をする無線選択呼出し受信機に関する。

(従来の技術)

この種の無線選択呼出し受信機は、複数の呼出し番号に対応して鳴音の断続周期の違いにより複数個の鳴音パターンを予め形成し、ある呼出し番号を受信すると、その呼出し番号に対応する鳴音パターンで通報動作を行うアラート通報確認手段を有している。すなわち、従来の無線選択呼出し受信機は、複数の自己の呼出し番号に対応して、鳴音の断続同期の違いにより鳴音パターンを形成し、呼出しアドレスを識別している。

また、緊急呼出しの場合、無線選択呼出し受信機の機能をメモリポジション又はミューティングポジションに設定すると、大音量の鳴音が発生し、緊急呼出しであることが確認できる。

(発明が解決しようとする課題)

上述した従来の無線選択呼出し受信機において、緊急呼出しの場合、この受信機の機能をノマルボ

ジョンに設定すると、緊急呼出しが通常呼出しの鳴音パターンと同様となる。なおかつ、大音量で鳴音が発生するため、緊急呼出しなのか識別できない。さらに、複数の鳴音パターンがあるため、どの呼出アドレスの鳴音なのか、あるいは緊急呼出しなのか複雑すぎてわからなくなる欠点がある。

本発明の目的は、このような欠点を除去し、複数個の個別選択呼出し番号のうち、緊急個別選択呼出し番号を知らせることのできる無線選択呼出し受信機を提供することにある。

(課題を解決するための手段)

本発明は、少なくとも2種類以上の個別選択呼出し番号を有する無線選択呼出し受信機において、呼出し信号に係る無線信号を受信して復調し、この呼出しに係る信号を出力する受信部と、

前記受信部からの、呼出しに係る信号と予め設定されている自己の呼出し番号とを比較して一致した場合、この呼出しが通常呼出しのとき、鳴音信号を送出し、リセットにより鳴音信号の送出を

号をデコーダ4で読み取り可能な波形に変換する。デコーダ4は、書き込み可能な読出専用メモリ(Programmable-Read Only Memory : PROM)すなわちROM5に予め書き込まれている自己の呼出し番号と波形整形回路3からの信号とを比較する。そして、両者が一致したときは、呼出しを知らせるために鳴音信号を送出する。

スピーカ駆動回路8は、デコーダ4からの鳴音信号が入力されると、スピーカ9を駆動して鳴音を送出するための増幅器である。

リセットスイッチ7は、鳴音の停止等を行う。

水晶振動子6は、デコーダ4を働かせるクロック発振子である。

電池11は、電源スイッチ10を経由して、無線回路2、波形整形回路3、デコーダ4、スピーカ駆動回路8に電源を供給する。

次に、この無線選択呼出し受信機の動作を、第2図のタイムチャートを参照して説明する。

無線選択呼出し受信機は、自己の呼出し番号を受信する(ステップS1)。すなわち、アンテナ

停止し、この呼出しが緊急呼出しのとき、所定時間のリセットにより鳴音信号の送出を停止するデコーダ部と、

前記デコーダ部からの鳴音信号を変換して鳴音を送出する変換部とを有することを特徴としている。

(実施例)

次に、本発明の実施例について図面を参照して説明する。

第1図は、本発明の一実施例を示すブロック回路図である。本実施例である無線呼出し受信機は、アンテナ1と、無線回路2と、波形整形回路3と、デコーダ4と、ROM5と、水晶振動子6と、リセットスイッチ7と、スピーカ駆動回路8と、スピーカ9と、電源スイッチ10と、電池11とで構成されている。

このような構成の無線選択呼出し受信機において、無線回路2は、アンテナ1により受信された無線信号を増幅した後復調する。

波形整形回路3は、無線回路2で復調された信

号をデコーダ4で読み取り可能な波形に変換する。デコーダ4は、書き込み可能な読出専用メモリ(Programmable-Read Only Memory : PROM)すなわちROM5に予め書き込まれている自己の呼出し番号と波形整形回路3からの信号とを比較する。

デコーダ204では、ROM5に予め書き込まれている自己の呼出し番号と波形整形回路3からの信号とを比較し、緊急呼出しが通常呼出しが判断する(ステップS2)。

通常呼出しの場合、デコーダは、呼出しを知らせるために、スピーカ駆動回路8に鳴音信号を供給し、スピーカ9を駆動する。この駆動により、スピーカ9から通常呼出し鳴音が発生する(ステップS3)。

このときに通常呼出し鳴音の発生後、X秒タイマがスタートし(ステップS4)、リセットスイッチ7が押されると(ステップS5)、鳴音が停止する(ステップS10)。また、リセットスイッチ7が押される前に、X秒タイマがタイムアウトすると(ステップS6)、鳴音が停止する(ステップS10)。

次に、ステップS2において、自己の呼出し番号が緊急呼出しの場合、通常呼出し鳴音と同じ断続周期の鳴音が発生する（ステップS7）。このとき、リセットスイッチ7を瞬時に何回押しても

（ステップS8）リセットはきかず、鳴音を発生し続ける。これにより、通常呼出しのときはリセットスイッチ7を一回押せば鳴音が停止するのに対し、同じ断続周期の鳴音で呼出される緊急呼出しはリセットスイッチ7を押してもリセットがきかず、緊急呼出しであることを識別することができる。

このような状態のときに、リセットスイッチ7をT秒間（2～3秒）押し続けることにより（ステップS9）、鳴音が停止し（ステップS10）、待ち受け状態に戻ることができる。

このようにして、少なくとも2種類以上の個別選択呼出し番号を有する無線選択呼出し受信機において、呼ばれたことを知らせる通報確認手段と、複数個の個別選択呼出し番号のうち緊急個別選択呼出し番号であることをリセットスイッチで確認

できる通報確認手段とを有し、通常呼出しのための鳴音パターンと緊急呼出しのための鳴音パターンとが同一であるので、リセットスイッチにて識別できる。

（発明の効果）

以上説明したように、本発明は、通常呼出しのときに発生する鳴音パターンと緊急呼出しのときに発生する鳴音パターンとが同じであるにもかかわらず、リセットにより識別することができ、複数の鳴音パターンを簡単に確認できる効果がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は、本発明の一実施例を示すブロック回路図、

第2図は、第1図に示す実施例の動作を示すフローチャートである。

- 1 ······ アンテナ
- 2 ······ 無線回路
- 3 ······ 波形整形回路
- 4 ······ デコーダ
- 5 ······ ROM

- 6 ······ 水晶振動子
- 7 ······ リセットスイッチ
- 8 ······ スピーカ駆動回路
- 9 ······ スピーカ
- 10 ······ 電源スイッチ
- 11 ······ 電池

代理人 弁理士 岩佐義幸

